

諸沢 巖教授略歴および研究業績

略 歴

- 昭和9年10月10日 誕生
昭和28年3月 東京都立立川高等学校卒業
昭和28年4月 東京教育大学文学部独語・独文学専攻入学
昭和36年3月 東京教育大学文学部独語・独文学専攻卒業
昭和36年4月 東京教育大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程入学
昭和39年3月 東京教育大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程修了
昭和39年4月 関西大学文学部助手
昭和42年4月 関西大学文学部専任講師
昭和45年4月 関西大学文学部助教授
昭和54年4月 関西大学文学部教授
平成12年4月 関西大学外国語教育研究機構教授

研究業績

著 書

- 『システム・ドイツ文法』(朝日出版社、昭和46年5月)共著
『日・独・英 連句「遠来の客」』(関西大学出版部、平成11年3月)共著
『森 鷗外 一受容の諸相一』(遊文舎、平成15年3月)共著

論 文

- 「W. ラーベの『縦の木のエルゼ』」(関西大学独逸文学会『独逸文学』10号、昭和39年12月)
「Wilhelm Raabeの青年期の体験について」(関西大学文学会『文学論集』16巻5号、昭和42年3月)
「Wilhelm Raabeの『笑い』の発展」(関西大学文学会『文学論集』20巻1号、昭和45年7月)
「Über Wilhelm Raabes „Im Siegeskranz“」(関西大学文学会『文学論集』21巻1号、昭和46年10月)

- 「ヴィルヘルム・ラーベの『雀横丁年代記』—物語手法を中心に—」（東京教育大学影の会『影』21号、昭和54年3月）
- 「Wilhelm Raabeの『帝冠』—Erzählstilを中心に—」（関西大学文学会『文学論集』28巻4号、昭和54年3月）
- 「ラーベにおける故郷喪失の問題」（19世紀ドイツ文学研究会『会報』31号、昭和56年1月）
- 「ヴィルヘルム・ラーベの『雀横丁年代記』—物語手法を中心に—（承前）」（東京教育大学影の会『影』24号、昭和57年3月）
- 「W. ラーベとA. ドゥルク」（東京教育大学影の会『影』33号、平成3年5月）
- 「W. ラーベとE. ゴラ」（19世紀ドイツ文学研究会『会報』63号、平成5年4月）
- 「W. ラーベの『ファビアンとセバスチアン』」（関西大学独逸文学会『独逸文学』43号、平成11年3月）
- 「W. ラーベの『三つの筆』」（東京教育大学影の会『影』43号、平成12年4月）
- 「W. ラーベの『三つの筆』—（承前）」（東京教育大学影の会『影』45号、平成14年5月）
- 「W. ラーベの『プフィスター水車小屋』—語り方からの解釈—」（関西大学独逸文学会『独逸文学』48号、平成16年3月）
- 「W. ラーベと環境問題—テーベ研究余滴—」（関西大学外国語研究機構『外国語教育研究』9号、平成17年3月）

翻 訳

- 「ラインハルト・デール：『ベンゲルザングと文学/文学とベンゲルザング』」（関西大学『文学論集』37巻4号、昭和63年3月）

事典項目

- 「ラーベ、Wilhelm Raabe」（教育出版センター『世界歴史大事典』第20巻、昭和60年4月）

編 注 書

- 「Kleine Deutsche Erzählungen」（関西大学出版部、昭和44年3月）
- 「Das Bild des Menschen」（関西大学出版・広報部、昭和44年4月）
- 「Deutsch fürs erste Jahr」（朝日出版社、昭和48年4月）
- 「Junge Freunde」（郁文堂、昭和55年3月）共編